

令和2年度 作物栽培管理情報第9号

令和3年1月発行

大分県中部振興局 集落営農・農地活用班

2. 令和3年産水稻 1. 栽培を始める前に行う作業

1) 品種選定・適期田植～品種毎の熟期・圃場の標高・出穂後の平均気温を参考に～

(1) 地点・標高毎の平均気温別 好適出穂期

- 出穂後の平均気温が20℃を下回ると、登熟不良等により収量・品質が低下します。

地点名(標高m)	平均気温別の好適出穂期		
	22℃>	>21℃>	>20℃
大分(5m)	9/7	9/12	9/18
犬飼(100m)	8/29	9/4	9/9
湯布院(435m)	8/17	8/23	8/29

(2) 品種・標高別の田植適期

品種	標高 0～100m	100～200m	200～300m	300～400m	400～500m	500～700m
ひとめぼれ				5/20～30	5/15～25	5/5～15
つや姫					6/15～20	6/5～15
ヒノヒカリ	6/20～30			5/25～6/5		

- 田植は品種の熟期に応じ
 - ①早生（ひとめぼれ、つや姫等）
 - ②中生（ヒノヒカリ、あきまさり等）
 の順に行いますが、標高の高い圃場では出穂後の気温低下による登熟不良を避けるため、中生を優先しましょう。

ポイント 品種を選定するときは、近年の気象概況も参考としましょう。

2) 播種前に行う作業 ～良い種子を適切に処理し良い苗に～

(1) 塩水選による種子選別 ※発芽の良い種子は塩水に沈んだ粃

- 水10L当たりの食塩等は、米の種類に応じた適正な量を使用しましょう。
- 発芽不良を起こさないよう、選別後は十分水洗いし塩分を取り除きましょう。

米の種類	比重	使用量(kg) / 水10L	
		食塩	硫安
うるち(粃)	1.13	2.0	2.9
もち(糯)	1.08	1.2	1.6

(2) 種子消毒 ※病気・害虫を防ぐ第一歩

- ①慣行 殺虫剤及び殺菌剤を溶かした水に24時間浸漬（薬剤は栽培暦を参照）
- ②温湯 温湯処理機の取扱説明書に従い浸漬

注意 慣行は農薬ラベル確認、温湯は処理時間・温度・浸漬する粃の量を厳守！

(3) 浸種・催芽 ※出芽の良否が決まるため慎重に！

- ①水槽の中身は「水>粃」
(水槽内の粃が多過ぎると酸欠になります！)
- ②種粃は網袋の7割程度が上限
(①と併せ、水と粃が十分接触するように！)
- ③水は原則として水道水を使用し、毎日交換
(浸種中の掛け流しは消毒効果を損ねるので×！)
- ④浸種日数=100℃÷水温(10℃以上)
(直射日光の当たらない場所に置きましょう！)
- ⑤鳩胸状態(右写真の様な状態)となったら催芽は完了
(粃の状態は毎日確認しましょう！)



ポイント 種子の品質を揃えることが、生育の良い苗確保の第一歩です。

近年は、栽培期間中の病害虫が多発する傾向にあります。
栽培暦・最寄りJAの店頭等で有効な薬剤を確認し、確実に予約しましょう。